

もう、明日からは、学校の九州旅行だ。

当分、会えない。

「そうだ、手紙を書こう！」

夢うつつで、そう思っていた。

その時、ドッスンと言う音で目が覚めた。
痛い！

寝ていた折り畳み式のベットの底が
抜けて、こわしてしまった。

目がいっぺんに覚めた。

おばがびっくりして、

「まあ、よっちゃんは！

もう一人前やなあ。

大きい、重くなって！」と笑う。

おばのお使いで、自転車で、室町へ、
おっちゃんが働いている靴の問屋へ行った。

仕事中だが、おっちゃんは、
ニコニコして、僕を迎えた。

「おお、よう来たなあ。

そうや、靴やるか、どれにする。」

靴がいっぱい天井まで積んであるのを見ながら、

「さあ、どうしよかなあ。」と、僕は目がくらんだ。

ピカピカの黒い皮靴をもらって、
お金を預かって、戻った。